

令和2年度 決算

一般会計歳出合計は
696億2,123万円

財政課・☎2106

市の2年度決算が、9月に開かれた市議会で認定されました。一般会計では前年度決算対比で歳入が30・1%、歳出が30・9%の増となりました。

実質収支額は16億1,284万円の黒字で、6億5千万円を財政調整基金に、2億円を減債基金に積み立て、残りを翌年度繰越金としました。

財政健全化法に基づく判断比率も、国の定める基準を下回り、財政状況は健全であるという結果が出ました。

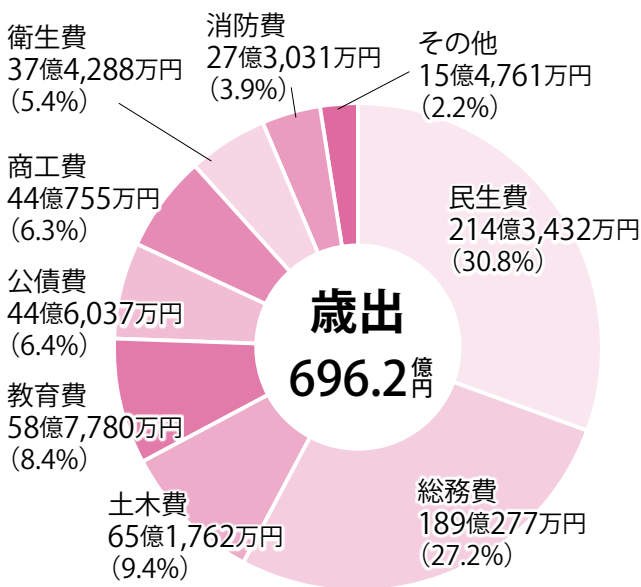
しかし、今後も新型コロナウイルス感染症の影響で市税などの減収が見込まれます。引き続き、事業効果や緊要性の検討を行い、真に必要な事業が実施できるような財政運営に取り組んでいきます。

一般会計決算内訳

歳出

696億2,123万円

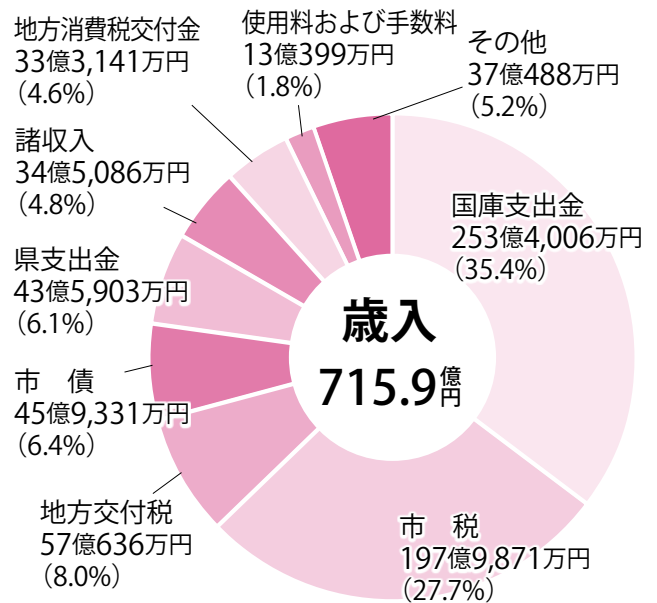
前年度対比 +164億4,868万円、+30.9%



歳入

715億8,861万円

前年度対比 +165億4,888万円、+30.1%



特別会計決算額

会計名	歳入	歳出
介護保険(保険事業勘定)	132億4,947万円	130億6,721万円
国民健康保険(事業勘定)	146億8,410万円	146億 810万円
後期高齢者医療	19億5,034万円	19億3,907万円
太陽光発電事業	5,921万円	5,612万円

市民1人当たりの額(一般会計)

1人当たりが
負担した額(市税)



14万972円

1人当たり
に使われた額



49万5,722円

※差額の35万4,750円は、国・県の補助金や地方交付税などでまかなわれています。



※過去の決算は市ホームページでご覧いただけます。

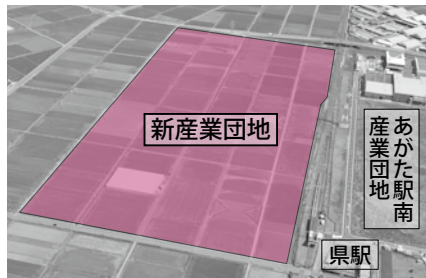
令和2年度に取り組んだ主な事業

- ▶結婚・子育て・学びあいプロジェクト
 - 新生児に聴覚検査を実施——316万円
 - 『キッズピアあしかが』遊具の更新—1,412万円
 - かなふり松チャレンジ(学力確認テスト)の実施——670万円
 - 子ども家庭総合支援拠点を設置——734万円
- ▶元気なしごとづくりプロジェクト
 - 子育て期女性の就労支援——23万円
 - (仮称)あがた駅北産業団地の開発—3,749万円
 - 南部地域土地改良事業——444万円
- ▶まちの魅力発信プロジェクト
 - 東京2020オリンピック等関連事業(聖火リレー実施)——179万円
- ▶映像のまち構想プロジェクト
 - ロケーション誘致補助、あしかが映像まつりなど——1,200万円

- ▶スマートウェルネスシティプロジェクト
 - 健幸づくり推進事業(健康二次被害対策事業含む)——370万円
 - まちじゅう・スポーツ健幸ジム事業——19万円
- ▶公共施設の最適化プロジェクト
 - 消防本部庁舎等建設事業——10億2,912万円
- ▶その他(地方創生総合戦略事業など)
 - 高齢者世帯を特殊詐欺から守る対策電話機器等購入補助——54万円
 - 業務の効率化を目指すRPA実証事業—198万円
 - 道路照明灯・公園街路灯エスコ事業(LED化工事など)——1,480万円
 - 市民体育館改修事業(トイレ・トップライト改修)——4,689万円
 - 総合運動場軟式野球場改修事業(グラウンド・フェンス等改修)—1億1,821万円



▲完成した消防本部庁舎



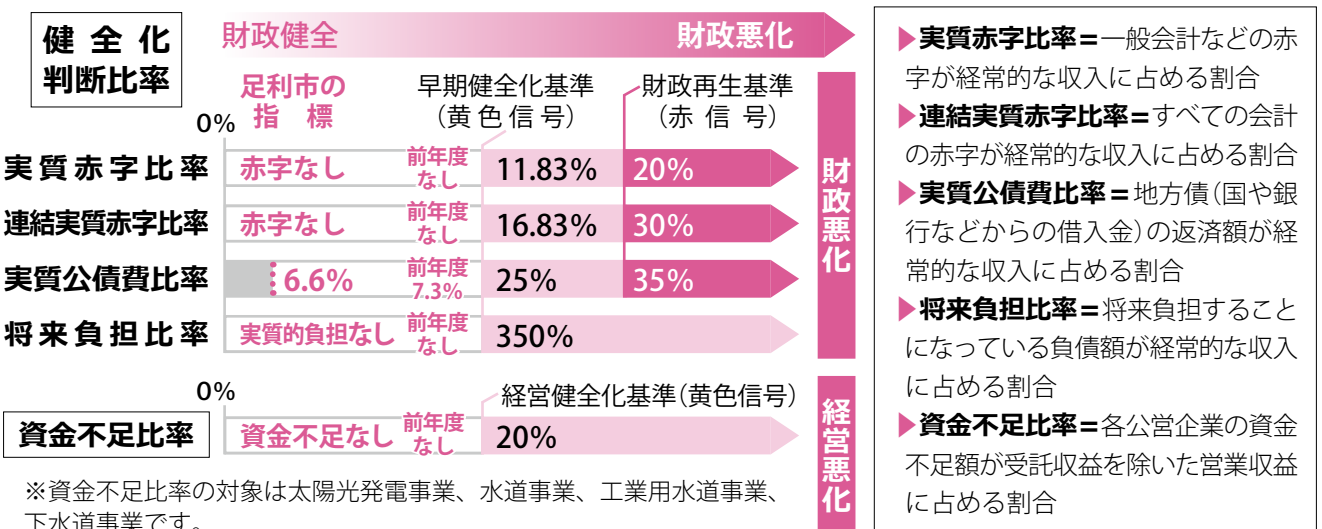
▲(仮称)あがた駅北産業団地の予定地



▲遊具が新しくなったキッズピアあしかが

健全化判断比率・資金不足比率

いずれの指標とも国の基準を下回り、財政状況は健全であるという結果が出ました。なお、この指標は、基準より低い数値であるほど、財政状況が健全であると判定されます。



- ▶実質赤字比率=一般会計などの赤字が経常的な収入に占める割合
- ▶連結実質赤字比率=すべての会計の赤字が経常的な収入に占める割合
- ▶実質公債費比率=地方債(国や銀行などからの借入金)の返済額が経常的な収入に占める割合
- ▶将来負担比率=将来負担することになっている負債額が経常的な収入に占める割合
- ▶資金不足比率=各公営企業の資金不足額が受託収益を除いた営業収益に占める割合